

伊賀市 事務事業評価シート

ソフト事業

事業名	コード	名称	会計	コード	名称
198		行政バス運行経費	01		一般会計
			02		総務費
51		市内交通機関の利便性を高める	01		総務管理費
			06		企画費
		企画振興部企画調整課	105		バス等対策事業経費
		山下 章光			行政バス運行経費
		連絡先			
		内線2115			
			細々目	01	

事業の計画・内容

事業の目的	対象等(何を、誰を)	成果(どうなるのか)
	上野市街地住民、高齢者等交通弱者、観光客などを主な対象と考えているが、利用者は限定しない。幹線交通から生活路線移動手段が必要な者	交通弱者の移動手段確保、地域住民の交通利便向上を図る。
本年度事業内容	上野産業会館を発着点として、上野総合市民病院を經由して市街地を循環する、西回りと東回りの2コースを運行。運賃は、1乗車100円。運行は三重交通へ委託。	
開始年度	平成 15 年度	終了年度 平成 年度
		根拠法令・要綱等 道路運送法第21条

投入資源

		H17	H18(予算)	H19(予算)
①投入人員	正規職員 (人)	0.4	0.35	0.35
	人件費合計(A)	2,880	2,520	2,520
②支出内訳(千円)	事業費(B)	28,433	27,388	26,100
	委託料	28,198	27,207	26,000
	その他	235	181	100
	合計(A+B)	31,313	29,908	28,620
③財源内訳(千円)	特定財源			
	国庫支出金	6,364	2,000	1,600
	地方債			
	受益者負担			
	その他特財	20,000	25,000	
	一般財源	4,949	2,908	27,020
上記①～③に関する特記事項				

事業実績

活動指標	単位	実績値			目標値		
		H17	H18	H19	H17	H18	H19
利用客数	人	58,048	58,500	58,500			
収支率	%	18.4	18.5	25			

評価指標

事業の目的の成果を測る指標	指標設定の考え方	単位	H17	H18(目標)	H19(目標)
乗客数	コミュニティバスの利便享受者の数値である。	人	58,048 目標 ()	58,500	58,500
収支率	費用対効果の指標として採用	%	18.4 目標 ()	18.5	25

事業開始時からの状況変化及び事業の改善点等

17年8月末で国庫補助の期間が満了し、県補助の適用となったが補助金額が減少した。収支改善のため運賃の見直しを要する。また、4条路線及び他の21条路線とのダイヤを調整して、運行の効率化を検討しているが、伊賀線の運行から近鉄が撤退するについて列車ダイヤが不透明であり、今後の課題である。

評価	必要性	4	医療機関や公共施設への交通機関として、年間5万人を超える利用者があり、交通弱者に欠かせないものとなったが、国庫補助期間が終了したため、収支改善が不可避となり、運賃見直しを要する。また、4条路線や廃止代替路線との競争を避けるダイヤ編成を進め、運行の効率化を検討する。	総合評価 B
	有効性	3		
	達成度	2		
	効率性	3		